

サンデー
コラム

中村正・秋田屋本店社長

今世紀に入って「スロふ」を掲げた「岐阜市スロライフ」という言葉が多く聞かれるようになった。元々はイタリアのブラという小さな田舎町から起こったスロフード運動に端を発し、スロライフへと広がったものである。現代のスロフード社会に対して生活をより豊かにするための生き方を模索し、じっくりと本物を味わうことが提唱されてきた。

最近のテレビはバラエ

岐阜市では11年前「スローライフシティーぎ

全日本学生落語選手権「策伝大賞」



なかむら・ただし 1951年、岐阜市生まれ。業界団体の県製菓協会会長、みつばちの家庭理事長、県養蜂組合連合会会長を務める。また県経済同友会代表幹事、岐阜南法人会副会長、岐阜商工会議所常議員、県フェンシング協会会長、岐阜市体育協会副会長、岐阜北高校同窓会会長を務める。

時代に大学落語で活躍され、学生達たちが発表する場の必要性を強く思われ、策伝大賞に大きな期待を持ち続けていただいている。

ティー番組が全盛で直ぐに笑いが取れるものばかりの様相であるが、それに対して落語は「おち」が最後にくるなどスローな笑いの代表と云える。そのような背景のなかで、細江茂岐、岐阜市長の提案で、今や落語の甲子園といふ。第1回の参加大学数は、実行委員会、NHK岐阜に笑いが取れるものばかりの様相であるが、それに対して落語は「おち」が最後にくるなどスローな笑いの代表と云える。そのような背景のなかで、細江茂岐、岐阜市長の提案で、今や落語の甲子園といふ。

もあり、2004年2月に岐阜出身で落語の祖といわれる安楽庵策伝和尚の名を冠した全日本学生落語選手権「策伝大賞」がスタートした。

主催は岐阜市と岐阜市笑い感動のまちづくり委員会。この10年間の発展は様々な要因が相乗効果を発揮してのことであるが、特に落語界の東西の大家、一色に染め、岐阜から全国に発信される3日間の一大イベントを、11回目

主催は岐阜市と岐阜市 板である桂文枝師匠と立国に発信される3日間の
笑いと感動のまちづくり 川志の輔師匠の参画と絶一大イベントを、11回目

岐阜から元気を発信

大なる協力の今年も大成功を収めら
る。贈物と云たまものれるよう実行委員会会長
である。両師として全力で努める所存
匠共、学生である。